

# 【講師紹介】



**氏名:**

吉田 俊道

**ふりがな:**

よしだ としみち

**肩書き:**

NPO 法人 大地といのちの会 代表

**出身都道府県:**

長崎県

**生年(西暦):**

1959年

**現住所:**

長崎県佐世保市

**主な経歴:**

1977 九州大学農学部入学

1986 同大学院修士課程修了、農業改良普及員として長崎県に就職

1996 有機農業に新規参入

1999.9 「大地といのちの会」結成  
(代表)

行政と協働して、子どもたちにいのちの循環体験、おなか畑の土作り体験などを広げている

**上記肩書き以外の「主な役職」:**

九州地域食育推進協議会委員

長崎県環境アドバイザー

## ■メッセージ

### 1. 生ごみリサイクル元気野菜作り体験

学校や保育園で子どもたちが調理くずや食べ残しを使って、とてもおいしくて信じられないくらい生命力の強い野菜作っている。初心者でも要領を呑み込めば、無農薬で虫がほとんど来ない、切ってもなかなか腐れない野菜が育つ。

土をいのちでいっぱいになると、いのちいっぱいの野菜が育つ。

汚なそうな生ごみから、一番きれいで元気な野菜を育てることができた時、子どもたちは、地球のいのちの循環を肌で感じ、自分は食べ物のいのちに支えられていること、自分は食べ物であり、地球であることを感じる。食べ物への感謝の気持ちと、食を本気で変える意思を、子どもたちは湧き上がらせる

### 2. おなか畑の土作り体験

上記の体験などで、食を変える強い動機づけができた子どもたちに、実際にいのちをいただく食生活を体験させる。具体的な食改善の17項目のうちから、それぞれ自分にできる3項目以上を選んで、30日間だけみんなで実践する。

すると、たった30日で、体温35度台の子どもたちの多くが36度台に回復し、心と体が根底から活性化するため、集中力、イライラが改善する。病気にかかりにくく治りやすくなり、夜ふとんに入ってすぐ寝付けるようになり、朝めざめが良くなるなど、驚くべき成果を実感する生徒や先生が続出している。

### 3. そのほか

有機野菜の産地育成、さらには地元生産者、企業による無添加加工食品や地元有機野菜を地元消費者とつなぐ、心の通う産地消を促進するための活動を行なっている。